

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

目上の人と付き合う人、付き合わない人 仕事の話は職場で完結させるのが基本

目上の人と付き合うか、付き合わないかというとき、「付き合う」という言葉の意味合いをよくかみ砕いて考える必要があります。もし「会社の延長線上の付き合い」ということであれば、付き合う相手によって選択すべきです。

チームや組織は大きく二つのタイプに分けられます。一つは、自分も含め周りが「埋没した個」ばかりであり、チームワークのみを標榜して傷の舐め合いばかりしている場合です。埋没した個をよしとしている限り、リーダーを育てる環境をつくれないので、そもそもリーダーが存在しません。もう一つのタイプは、「自立した個」同士が集まってチームワークをつくっている場合です。自立した個の集まるチームや組織には、立派なリーダーが存在する可能性が非常に高くなります。「自立した個」である優秀な部下であれば、それだけのリーダーシップを持ったリーダーにのみ従うこととなります。逆に、埋没した個の集団の中にいるリーダーは、部下によって御神輿に担がれたような立場です。自分では特別何もできません。そういったリーダーのいない集団は、方向性を見失い、烏合の衆となり果てます。

傾向として、海外で仕事をした経験のある人は、自立した個としての考え方を身につけることができる可能性が高いようです。ですから私は常々、若いうちから海外へ飛び出すことの大切さと説いています。一度放り込まれたら、自力で生き延びていくしかありません。そういう環境に自分をおいて鍛えることができる人は、自立した個を持ち始め、必ず伸びていきます。自立した個の集団にいと、厳しさの中で必然的に育っていくものです。苦しむことによって人は自ら育つものです。もし、あなたが自立した個が集まったチームの中にいるのなら、おそらくあなたの側には優れたリーダーがいるでしょう。その場合は、目上の人と積極的に関わりを持つようにしてほしいと思います。自分の中に自立した個を育てるため、またリーダーとしての資質を育てるために、その人から学べるものがたくさんあるはずですよ。

チームワークは、お酒を飲みながらつくるものではありません。チームワークは、サッカーであればピッチの上でつくるものであり、野球であればグラウンドの上でつくるものです。仕事であれば、もちろんオフィスでつくるものに他なりません。リーダーのあり方、チームワークのあり方というのは、仕事のうえで具現化されるべきであり、会社の中で完結されるべきものなのです。ところが、多くの方が、仕事の後にちびちびとお酒を飲みながら、上司にありがたいお説教をいただいて、「なるほど、これがチームワークか」と勘違いしています。一度勘違いすれば、自分が上司という立場になったとき、部下に同じように接するでしょう。実際にはお酒を介して成り立つ上下関係など本来意味がないし、お酒が入った状態で実のある話などできません。それを知っているから優秀なリーダーは、間違っても「飲みにケーション」を周りに強要したりしないのです。上司に付き合って飲むことや、部下を飲みに誘ったりすることのすべてを突っぱねろ、といたいわけではありません。ただ、一杯飲むことが必要不可欠かといえど、そうではないといたいのです。日本人感覚からすれば「それはおかしい」と思われるかもしれませんが、まずはその感覚に疑問を持ち、見直してください。繰り返しますが、リーダーシップを含め、チームワークはあくまでも仕事のうえで具現化され、会社の中で完結されるべきものなのです。そうして目上の人との付き合い方を見直すことが、ひいては自分の中に自立した個を持つ仕事ができる社員、一流のビジネスマンへと自分を育てることにつながるはずですよ。

一流のビジネスマンへと自分を育てることにつながるにはどうすればいいと言っていますか？

( )